

ボティン財団公式 STATEMENT 和訳

(ボティン財団機関誌「PEDRUECA」社説掲載)

「一つの花」

1年後私たちは再び会います。より結束し更にまとまり、私たちがすばらしい到達点に達することができるよう、少しずつ急ぐことなく、調和をとりながら進めていきます。

昨年、この協会は、給費生がかかわっている日西の文化芸術交流プロジェクト「一つの花フェスティバル」に経済的支援を行いました。

この「一つの花フェスティバル」のコンセプトは、今西祐行氏によって著された児童文学に基づいています。戦争を体験された今西氏は、この本の中で人間らしい生き方と平和の重要性を、戦争時代を生きた少女の姿を通して穏やかに語っています。

今西裕行氏は、広島の実験を体験されています。想像するいかなる自然災害をも凌ぎ破壊をもたらすこのような原爆を生み出し使用することは、決してなされるべきではなかったのです。

自分たちや自分たちの子供の為の良好な経済状況や発展を無視し、才能や人材を、破壊のための武器を作るために使うことは、実に嘆かわしいことです。素晴らしい目的を達成するために、協会の一員として「一つの花フェスティバル」のようなプロジェクトに協力しなくてはならないのです。私たち協会により奨学金を受けている人たちの役に立つ場合には尚更です。

学生達が自らの才能をもって人生という素晴らしい贈り物を享受するために、私達は共に努めていきます。始まりがあれば終わりがある一本の花のように、私達がいつしか滅び行く運命と知りながら。

マルセリノ・ボティン財団
奨学金協会長

Juan Carlos Comiero Lera